

安全の手引き

2025 年 2 月
在キプロス日本国大使館

目次

I はじめに

II 防犯の手引き

- 1 防犯の基本的な心構え
- 2 最近の犯罪発生状況
- 3 防犯のための具体的注意事項
- 4 交通事情と事故対策
- 5 テロ・誘拐対策

III 在留邦人用緊急事態対処マニュアル

- 1 平素の心構え（連絡体制の整備）
- 2 緊急時の行動
- 3 緊急事態に備えてのチェックリスト

（参考資料）

【参考１】キプロス緊急連絡先一覧

【参考２】緊急時におけるギリシャ語表現集

I はじめに

この「安全の手引き」は、皆様のキプロスでの滞在が安全なものとなるために、犯罪被害に遭うことを防ぐポイントや、大規模災害等が発生した場合の対処方法などについて参考情報を紹介するものです。

在留邦人をはじめ、観光やビジネスなどで当地を訪問される方々のために、この「安全の手引き」では、キプロスで犯罪被害を防ぐポイントや、災害時の対処方法などについて紹介しています。みなさまの安全で快適な滞在のための参考にいただければ幸いです。また、外務省の[海外安全ホームページの安全対策基礎データ](#)も併せてご活用ください。

なによりも、最新の情報を得ることが重要です。[在留届](#)（キプロスに3か月以上居住される方）にメールアドレスを登録していただいた在留者の方及び[旅レジ](#)（3か月未満の滞在や短期の旅行の方）登録者の方に、最新の治安情報をメール配信しております。ぜひご利用ください。

II 防犯の手引き

1 防犯の基本的な心構え

海外の生活では「自分（家族）の身の安全と財産は自ら守る」という意識を持って、犯罪者からターゲットとされないような生活習慣を身につけることが重要です。常に犯罪への警戒心を抱き、行動することは犯罪者の視点からは「狙いにくい対象」として映り、犯罪予防に大きな効果となります。防犯の基本的な心構えとして、以下の点に注意してください。

- （１）在宅、不在問わず住居には常に施錠し、貴重品の管理を怠らない。
- （２）不測の事態に備え、常に周囲の状況に気を配る。
- （３）危険とされる地域には立ち寄らない。
- （４）周囲に溶け込んだ服装を心がける。
- （５）不必要なトラブルや争いに巻き込まれないように言動には注意する。
- （６）日常生活をパターン化させない。
- （７）防犯機器を積極的に活用する。
- （８）日本国大使館、警察署、病院等の連絡先や所在地を事前に把握しておく。
- （９）事故や盗難などを保障できる各種保険に加入する。

2 最近の犯罪発生状況

（１）一般犯罪

キプロスは欧州諸国内でも治安の良好な国とされています。ただし、都市部等においてはスリ、ひったくりといった犯罪に加え、飲食店やバー等で法外な料金を請求されるいわゆる「ぼったくり」の被害事例や、違法薬物が関

連する犯罪も発生しています。また、アフリカや中東諸国等からの不法移民が増加しており、将来、治安に影響を与える可能性もあります。

(2) キプロス問題の影響

キプロスでは、1960年に英国から独立後、多数派を占めるギリシャ系住民と少数派のトルコ系住民との間で激しい対立が続きました。1974年、トルコ軍がキプロス北部を占領し、1983年、「北キプロス・トルコ共和国」（以下「北キプロス」）が一方的独立を宣言しました。このため、キプロス島の北部占領地域にはキプロス政府の実効的な支配が及んでいません。2003年に、「北キプロス」当局がトルコ軍占領地域への移動制限を緩和したことをきっかけに、キプロス政府も一定の制限をつけた上で、観光客を含むすべての人々の「北キプロス」への入域を認めています。しかし、トルコ以外の日本を含む各国は現在も「北キプロス」の独立を承認していないため、日本国大使館も、「北キプロス」域内で公的な活動を行うことはできません。すなわち、この地域で日本人が何らかのトラブルに巻き込まれた場合、邦人保護活動は困難なため、同地域への渡航、滞在に当たっては十分な注意が必要です。

3 防犯のための具体的注意事項

(1) 住居

住居を選定する場合、犯罪者に狙われる危険性を考慮することが重要です。一般的には、独立家屋より集合住宅、集合住宅では低層階より高層階が安全と言われています。ただし、高層階で安心して施錠等を怠ると、高層階を専門に狙う犯罪者が侵入する危険性があるので油断は禁物です。また、犯罪者は犯行を見られることを嫌うため、塀で囲われて外から建物が見えない家屋をターゲットにする傾向があります。住居の選定に際しては、部外者が容易に立ち入ることのできないセキュリティー設備を備えた物件を選びましょう。夜間照明や不在時警報装置等は防犯に効果的であるといえます。

また、車上ねらい等の被害を防止するため、住居の選定に際しては、管理の行き届いた駐車場を備えた物件が好ましいといえます。

長期間不在にする場合は、信頼のおける隣人や管理人等に声をかけ、可能ならば郵便物等が溜まることのないように回収を依頼しておくといえます。

(2) 外出時

外出時は以下のような様々な犯罪に遭遇する可能性があり、常日頃から警戒心を持つことが必要です。

スリ：バス等の公共交通機関、繁華街の雑踏など人が多い場所はスリにと

って格好の犯行場所であり、多くの犯罪が発生しています。人混みの中ではバッグ等の所持品は正面で抱え、常に目の届くところに保持するなどの注意が必要です。

可能ならば小額の金銭を入れた財布と本来の財布を使い分ける、そもそも必要以上の現金を持ち歩かない、周囲に不審な人物がいらないか警戒する等の注意が必要です。

置引き：レストラン等で荷物を置くような場合は、貴重品は必ず目の届く場所に置き、荷物を置いたままその場を離れないことが重要です。置引きの犯人は観光客の多いエリアをはじめ、ホテルの朝食場所など思いがけない場所にもおり、ちょっとした油断を常に狙っています。

強盗：近年、日本人が被害者となる強盗事件は発生しておりますが、被害に遭わないよう住居の戸締まりを徹底し、深夜、早朝の一人歩きは避けてください。犯罪に巻き込まれた場合は不用意な抵抗は絶対にしないでください。

車上ねらい：車両には防犯アラームを付け、貴重品は車内に残さない様に注意し、路上駐車は極力避け、管理の行き届いた駐車場を利用する必要があります。

(3) 生活

近隣者：キプロス社会においては近隣との口コミが非常に重要な情報源となることが多く、近隣者と良好な関係を持つことは何かと有益です。

訪問者：訪問者があった場合は、監視モニターや覗き穴等で相手を確認し、用件が明確でない場合は開錠しないようにしましょう。開錠する場合でも、扉内側にはチェーンロックを装備するなどにより、完全に開扉することなく対応することも一考です。

使用人：当地において使用人は口コミで紹介されることが多いですが、選ぶ場合は信頼がおける人物であるかどうかを確認するのが重要です。

郵便物：当地では郵便ポストを備えていない住居が多く、その場合配達された郵便物は入り口付近等の床に置き放しです。ポストがないと郵便物が遺失する危険性のみならず、郵便物を通じて家族の情報を知られてしまう危険もありますので、家屋所有者と交渉して郵便ポストを設置することをお勧めします。

鍵：鍵が簡素なものであると認められるような場合には頑丈な物に取り替えてもらうよう家屋所有者と交渉することをお勧めします。

4 交通事情と事故対策

事故対策：歩行者の不意な飛び出しや死角からのオートバイの急接近等のほか、道路上には交通事故に繋がる要因が多数存在します。生命及び身体に関わるような事故の場合は、直ちに救急車（112 番）を呼んでください。日本における事故時の対応と特に変わりはありませんが、次の諸点に注意して対応するようにしましょう。

- 負傷者の救護を最優先する（救護義務があります）。
- 相手の免許証等を必ず確認し、スマホで写真に撮る等記録をとる（軽々に非を認めないように心がける）。
- 目撃者を確保する（目撃者証言は重要です）。
- 警察には必ず通報する。
- 現地人の知人等に支援を求める（当地事情に通じた人の支援は重要です）。
- 事故車両をむやみに移動しない（キプロスでは、事故現場は発生時の状況を保存する必要があります）。

5 テロ・誘拐対策

平素から、会社、日本国大使館、弁護士、警察及び病院等の緊急連絡先リストを作成し、常時携行することが重要です。重大事件発生の際は、想像を超える速さで世界的に伝播するので、安否連絡がない場合は、行方不明者として家族のみならず各方面に多大な心労を与えることになります。そのため、緊急事態発生の際の「身の安全」に係る連絡は徹底して行うことが肝心です。

平素からテロや治安に関する情報の収集に心がけることも重要です。テロ、デモ及び暴動等は、世界情勢や国内情勢に敏感に反応して行われるので、常に国内外の最新情報入手に努め、噂やデマに惑わされないよう注意する必要があります。

自宅周辺、また人混みの中などにおいても、常に警戒心を保持して周囲には気を配り、不審な兆候や不審者を察知するように心がけることが大切です。ご家族や職場では有事の際に一時避難する最寄りの緊急避難場所等を決めておくなど、電話連絡がつかない事態になってもお互いの確認ができるように良く話し合っておくことも重要です。

誘拐事件：近年は、外国人を標的とした誘拐・略取事件は発生していませんが、ご自身はもちろん、家族の安全を守るためにも、万一に備えた対策を考える必要があります。狙われる対象としては、社会的地位の高い人物や有名企業の社員・家族等が考えられます。犯罪者は、事前に周到な調査を行った上で犯行に及びますので、次の点について注意してください。

- 不審な兆候を読み取る。

(犯罪者の下見活動等何らかの不審点が必ずあります。)

- 外出時間や通勤路などをパターン化しない。

(犯罪者にとって犯行が容易になります。)

- 個人スケジュールは他人に見られないよう心掛ける。

(犯罪者にとって重要な情報です。)

- 単独行動はなるべく避ける。

テロ事件：特に深夜、早朝の時間帯はテロ攻撃が発生する危険性が高くなっています。テロ事件の被害を避けるためにも、次の点について注意をしてください。

- 深夜、早朝は不要不急の外出は避ける。
- 車両を駐車する場合は路上駐車を避ける。
- 政府、警察施設及び主要国大使館等はテロ組織の攻撃対象となりやすいので訪問は短時間にとどめる。
- 大規模デモにはアナキスト及びテロリスト等が紛れ込んでいる場合もあるので、不用意に近づかない。
- 警察官が誘導や封鎖措置をしている場合、その指示に従う。

Ⅲ 在留邦人用緊急事態対処マニュアル

1 平素の心構え（連絡体制の整備）

- (1) 外国に住所を定めて3か月以上滞在する在留邦人の方は在留届を必ず提出して下さい。

在留届は日本の旅券法第16条により、その地域を管轄する日本国大使館または総領事館に提出することが義務付けられています。

引っ越し、転勤等により在留届の届出内容に変更が生じた場合には速やかに[オンライン在留届（ORR ネット）](#)から、変更届または帰国・転出届を提出してください。

また、国外へ渡航される際（3か月未満の滞在）には、その渡航先において、[「たびレジ」](#)への登録をしてください（たびレジへ登録すると、訪問国の日本国大使館などから現地の緊急時情報提供を受けられます）。

- (2) 緊急事態はいつ起こるとも限りません。予めそのような場合に備えて家族間、企業内、邦人団体での避難場所等を含めた緊急連絡方法を決めておいてください。また、お互いに所在を明確にして連絡が取り合えるようにしてください。
- (3) 緊急事態発生の際、当館よりホームページや在留届に基づく一斉通報メール、電話、FAX等で情報を提供しますが、電話回線等が使用できなくなる

場合、公衆の場での無線インターネットやＴＶ、ラジオ等メディアからの情報の入手に努めてください。

2 緊急時の行動

(1) 心構え

緊急事態が発生、または発生するおそれがある場合に、当館は邦人保護に万全を期するため、所要の情報収集、分析及び対策を策定し、[当館ホームページ](#)やメール、電話、ＦＡＸ等を利用して随時通報します。常に平静を保ち、流言飛語に惑わされたり、群集心理に巻き込まれたりすることのないよう注意してください。

(2) 情報の把握

緊急事態発生の際には、現地・海外報道衛星放送テレビ等の視聴による情報収集を各自心がけてください。

(3) 当館への通報等

ア 現場の被害状況については、随時当館に連絡して下さい。他の在留邦人の方にとって貴重な情報となります。なお、危険と判断した場合、即時に現場を離れ、安全な場所に避難してください。

イ 自己の安否状況はもとより、自分の家族または他の邦人の生命・身体・財産に危害が及ぶ、または及ぶ恐れがあるときは、迅速かつ具体的にその状況を当館に連絡してください。

ウ 緊急事態発生の際、在留邦人の皆さんがお互いに助け合って対応に当たることも必要になります。当館より在留邦人の方々にも支援をお願いすることもありますので、ご協力をお願いします。

(4) 国外への退避

状況に応じ各自または勤務先の会社等の判断により、自発的に帰国、第三国へ出国する場合、その旨を当館へ連絡してください。

3 緊急事態に備えてのチェックリスト

(1) 旅券

旅券については常時６か月以上の残存有効期間があることを確認して下さい。（６か月以下の場合には更新の申請をすることをお勧めします）。旅券の最終頁の「所持人記載欄・緊急連絡先記載欄」は漏れなく記載してください。下段に血液型（blood type）を記入しておいてください。

(2) 現金、貴金属、預金通帳等の有価証券、デビット・クレジットカード

これらの物は旅券同様すぐ持ち出せるよう保管しておいてください。現金は家族全員が１０日以上生活できる、または家族全員が近隣諸国へ避難

する航空賃を購入出来る額を最低限として予め用意してください。

(3) 自動車の整備等

ア 自動車をお持ちの方は定期的に整備しておくことを心がけてください。

イ 燃料はこまめに入れておき、極力燃料タンクが空に近い状態になることを避けてください。

ウ 車内には、常時、懐中電灯、地図、ティッシュ等を用意してください。

エ なお、自動車をお持ちでない方は、近所に自動車を持っている人と平時から連絡をとり、必要な場合に同乗できるよう相談しておくことをお勧めします。

(4) 携帯電話

いざという時のため、こまめに充電してください。また、自動車用の充電器も用意しておくことをお勧めします。

(5) 携行品の準備

上記(1)～(4)に加え、次の携行品をすぐに持ち出せるようにしておいてください。

ア 衣類・着替え(行動しやすく耐久性の高いもの)

イ 履物(行動に便利で靴底の厚い頑丈なもの)

ウ 洗面用具(タオル、歯磨セット、石鹸等)

エ 非常用食料等

しばらく自宅待機する場合も想定して、米、調味料、缶詰類、インスタント食品等の保存食、乳児が居る場合は粉ミルク及びミネラルウォーターを家族全員で10日程度生活できる量を備蓄しておいてください。

オ 医薬品

家庭用常備薬の他、常用薬、外傷薬、消毒用石鹸、衛生綿、包帯、絆創膏

カ ラジオ

平時より現地及び海外放送を受信できるか確認しておいてください。

電池使用のラジオをお持ちの方は予備の電池も保管してください。

キ その他

懐中電灯、予備の強力バッテリー、ライター、マッチ、ナイフ、缶切り、栓抜き、紙製の食器、割り箸、固形燃料、簡単な炊事用具、可能ならヘルメットまたは防災頭巾(応急の場合は椅子用クッションで対応)。

【参考 1】

キプロス国内緊急連絡先一覧表（国番号 +357）

《大使館》

在キプロス日本国大使館 TEL：22394800

執務時間（平日 8:15～17:00）外は領事用メールアドレス（cy-ryouji@cy.mofa.go.jp）にご連絡ください。土日・祝祭日でも緊急のご用件は返信対応しております。または、大使館直通番号にお電話いただき、自動ガイダンスにて案内される電話番号までお電話ください。

《緊急》

○ 緊急（警察緊急、救急車、消防）TEL：199・112

困った時はまずは112に電話してください。そこから警察等必要部署に電話が繋がります。

《警察》

○ ニコシア警察署 TEL：+357 22802020

○ ラルナカ警察署 TEL：+357 24804040

○ ラルナカ空港警察署 TEL：+357 24804800 / +357 24804840

○ リマソール警察署 TEL：+357 25805050

○ パフォス警察署 TEL：+357 26806505

《主要病院》

○ NICOSIA GENERAL HOSPITAL TEL：+357 22603000

○ LARNACA GENERAL HOSPITAL TEL：+357 24800500

○ LIMASSOL GENERAL HOSPITAL TEL：+357 25801100

○ PAPHOS GENERAL HOSPITAL TEL：+357 26803100

《その他コールセンター等》

○ Drugs/Narcotics/Poison Emergency（薬物による緊急連絡先）TEL：1410

○ Citizens' hotline to police（市民ホットライン）TEL：1460

○ Police Duty Officer (Confidential Information) TEL：1499

（警察（機密情報・個人情報））

《空港》

○ ラルナカ国際空港 (24-hour service)

TEL: +357 77778833 / +357 24008038 (local calls only) / +357 25
123022 (int. calls only)

・ パスポートコントロール

(到着) TEL: +357 24 804621 / +357 24 804623

(出発) TEL: +357 24 804685 / +357 24 804700

○ パフォス国際空港 (24-hour service)

TEL: +357 77778833 / +357 24008038 (local calls only) / +357 25123022
(int. calls only)

・ パスポートコントロール

(到着) TEL: +357 26 806419

(出発) TEL: +357 26 806449

《航空会社》

○ Emirates (エミレーツ) TEL: +357 24008420

○ Qatar (カタール) TEL: +357 24008373

○ Lufthansa (ルフトハンザ) TEL: +357 24008448 / +357 26007261

○ British Airways (ブリティッシュエア) TEL: +357 24008530 / +357
26007230

○ Aegean Airlines (エーゲ航空) TEL: +357 24008441

【参考 2】

～ 緊急時におけるギリシャ語表現集 ～

キプロスでは、ほとんどの場所で英語が通用しますが、有事の際、先方に急を要する事態であることが伝えられずに難渋するのは避けたいものです。すべての緊急事態を網羅するものではありませんが、「ギリシャ語」で緊急事態を伝える表現をいくつか集めてみました。ご活用いただければ幸いです。

なお、とりあえずの緊急連絡を行った際には、速やかにギリシャ語の話せる同僚、知人等に連絡して立ち会い等を求め、関係当局者に改めて事件・事故の内容を伝達するようにしましょう。

【助けを求める際の一般的な表現】

- 英語を話すことができる人はいますか？
 - ・ ミライ カピオス アングリカ？ (MILAI KAPIOS AGLIKA?)
- 助けてください。
 - ・ ヴォイシステ メ パラカロ (VOITHISTE ME PARAKALO.)
- 助けて！
 - ・ ヴォイシア！ (VOITHIA!)
- すぐ来てください。
 - ・ エラテ アメソス (ELATE AMESOS.)
- 私の名前は・・・です。
 - ・ オノマゾメ・・・ (ONOMAZOME・・・)
- 住所は・・・です。
 - ・ イ ディエフシンシ ム イネ・・・ (I DIEFTHINSI MU INE・・・)
- 電話番号は・・・です。
 - ・ オ アリスモス テイレフォヌ イネ・・・ (O ARITHMOS TILEFONU INE・・・)
(1 エナ、2 ディオ、3 トウリア、4 テッセラ、5 ペンデ、
6 エクシ、7 エプタ、8 オクト、9 エネア、0 ミゼン)
- 事件（事故）の場所は・・・です。
 - ・ ト メロス (トウ アティヒマトス) イネ・・・ (TO MEROS (TU ATIHIMATOS) INE・・・)

- 警察（救急車）を呼んでください。
 - ・ パラカロ カレセテ ティン アスティノミア（ト アスセノフォロ）
（PARAKALO KALESETE TIN ASTINOMIA(TO ASTHENOFORO)）

【警察で】

- 空き巣に入られました。
 - ・ エギネ ディアリクシ（EGINE DIARIKSI.）
- 強盗に襲われました。
 - ・ エギネ リスティア（EGINE LISTIA）
- 鞆をひったくりに遭いました。
 - ・ ム エクレプサン ティン ツァンダ（MOU EKLEPSAN TIN TSANTA.）
- 車（財布）を盗まれました。
 - ・ ム エクレプサン ト アフトキニト（ポルトフォリ）
（MOU EKLEPSAN TO AFTOKINITO(PORTOFOLI)）
- 殴られました。
 - ・ メ クティピサン（ME KTIPISAN.）
- ナイフで刺されました。
 - ・ メ クティピサン メ マヒェリ（ME KTIPISAN ME MAHERI.）
- 子供が誘拐されました。
 - ・ エギネ アパゴギ ペディウ（EGINE APAGOGI PEDIU.）
- 子供がいなくなりました。
 - ・ ト ペディ ハシケ（TO PEDI HATHIKE.）
- 事故に遭いました。
 - ・ エギネ アティヒマ（EGINE ATIHIMA.）
- 怪我をしています（怪我はしていません）。
 - ・ （ゼン）トラヴマティスティカ（(THEN) TRAVMATISTIKA.）

【消防へ】

- 火事です。
 - ・ エギネ ピルカイア（EGINE PIRKAIA.）
- 火事だ！
 - ・ フォティア（FOTIA!）

【病院へ】

- 病気です。～本人の場合
 - ・ イメ アロストス（男性）/ アロスティ（女性）（IME AROSTOS / AROSTI.）

- 病気です。～家族の場合
 - ・ エホ エナン アロスト(男性) / ミア アロストティ (女性)
(EHO ENAN AROSTO / MIA AROSTI)
- 頭を怪我しました。
 - ・ クティピサ(本人) スト ケファリ / クティピセ(彼・彼女)
(KTIPIISA / KTIPISE STO KEFALI)
(顔：プロソポ、腕：ブラツォ、足：ポディ、手：ヒェリ、胸：スティソ
ス、腹：キリア、背中：プラティ、肩：オモ)
- 出血しています。
 - ・ エモラゴ(本人) / エモラギ(彼・彼女) (EMORAGO / EMORAGI.)
- 意識がありません。
 - ・ リポシミセ(彼・彼女)) (LIPOTHIMISE.)
- とても痛いです。
 - ・ ポナオ ポリ(本人) / ポナイ ポリ(彼・彼女) (PONAO POLI / PONAI
POLI.)